

# 教育と文化

## 市教育研究大会

### 地域社会と幅広く連携した教育を

12月25日、市民センターで第56回伊万里市教育研究大会がありました。これは、子どもが『生きる力』を育むために質の高い教育を実践することを目指して、市教育研究会などが開催しているものです。

会員発表では伊万里小学校の吉野浩二指導教諭が、学校と地域との連携の在り方について、『響け伊小の会』での具体的な取り組みを通して考えたことを報告しました。参加

した教職員は、興味深い事例発表に熱心に聞き入っていました。



↑会員発表する吉野指導教諭

## 新春かるた会

### 昔の遊びで伝統文化を知ろう

1月13日、恒例の新春かるた会が市民図書館でありました。これは、昔ながらの遊びを通して日本の伝統文化などを知ってもらおうと、図書館フレンズいまりが毎年開催しているものです。

この日は、幼児から高校生まで34人が参加しました。会場にはオーソドックスな『いろはかるた』のほか、『日本の昔話かるた』や『防災かるた』など多彩なかるたが勢ぞろい。学年などで分かれた子

どもたちは、思い思いのかるたを選んで札の取り合いを楽しんでいました。



↑一斉に手が伸びる白熱の戦い

# 郷土の文化財

## 伊万里の城館跡シリーズ⑥

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎03186

### 本城跡

本城跡は、南波多町重橋字谷口の丘陵上に立地する山城跡です。丘陵の最高所に主郭を構成し、主郭の北・東・南東・南西に伸びる尾根上にそれぞれ曲輪状の平坦面を連続して設けています。主郭と各尾根との間には、両側斜面に豎堀を設け、通行を制限する土橋状になっています。特に主郭から東に伸びる尾根には、明瞭な曲輪が確認でき、虎口空間（門のある城の出入り口）が構築されており、出丸であると考えられます。

在城した人物についての確かな記録はありませんが、後世の文献では川添監物という人物が居住していたとも伝えられています。

本城へは、立地する丘陵の南側の農道、もしくは丘

陵の南東端に所在する大山西神社の裏手から尾根伝いに歩いて行くとたどりつけます。全体として山城の地形を残していますが、特に東側の丘陵上の出丸の残りがよく、当時の山城としての機能を物語っています。



↑本城跡 出丸部分の曲輪（破線は曲輪の輪郭）